

3 交際相手からの暴力の被害経験

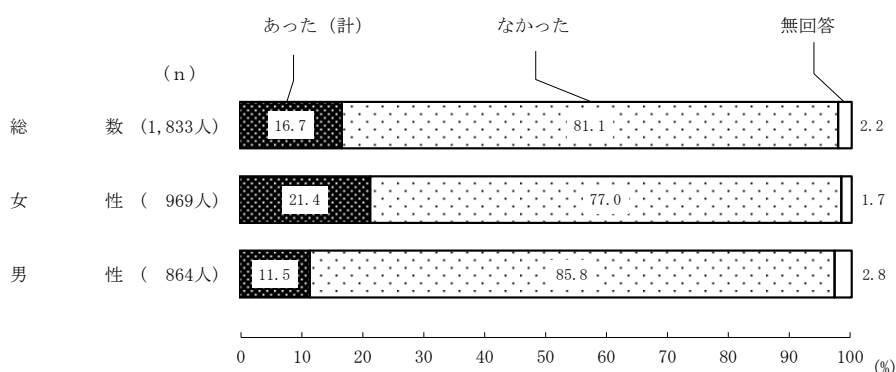
(1) 交際相手からの暴力の被害経験の有無

「交際相手がいた（いる）」という人（1,833人）に、“身体的暴行”“心理的攻撃”“経済的圧迫”“性的強要”の4つの行為をあげて、当時の交際相手から被害を受けたことがあるかをそれぞれの行為について聞き、いずれかについて交際相手から被害を受けたことがある人（「10歳代にあった」、「20歳代にあった」、「30歳代以上にあった」のいずれかを回答した人の計）をまとめた。

当時の交際相手から“身体的暴行”“心理的攻撃”“経済的圧迫”“性的強要”のいずれかの被害を受けたことが『あった』が16.7%で、女性が21.4%、男性が11.5%となっている。（図3-1-1）

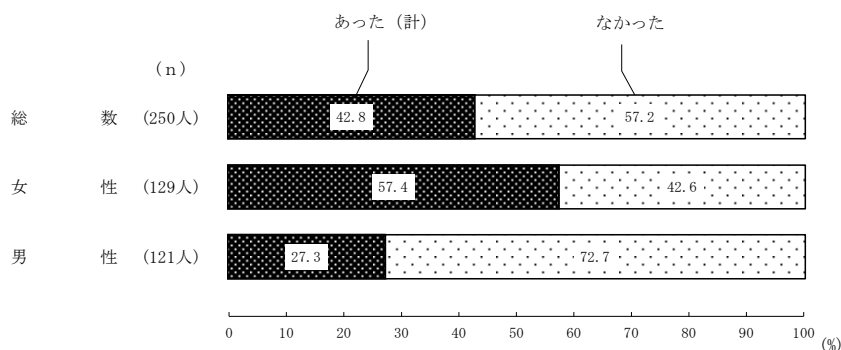
問16 あなたはこれまでに、交際相手から次のA～Dのようなことをされたことがありますか。A～Dのそれぞれについて、「①交際相手」のあてはまる番号に○をつけてください。また、「①交際相手」と同居した経験（いわゆる「同棲経験」）がある方は、「②同居期間中」についてもお答えください。（○はそれぞれいくつでも）

図3-1-1 交際相手からの被害経験の有無



交際相手と同居した経験（いわゆる「同棲経験」）がある人（250人）に、その同居の際の被害経験を聞いたところ、いずれかの被害を受けたことが『あった』が42.8%で、女性が57.4%、男性が27.3%となっている。（図3-1-2）

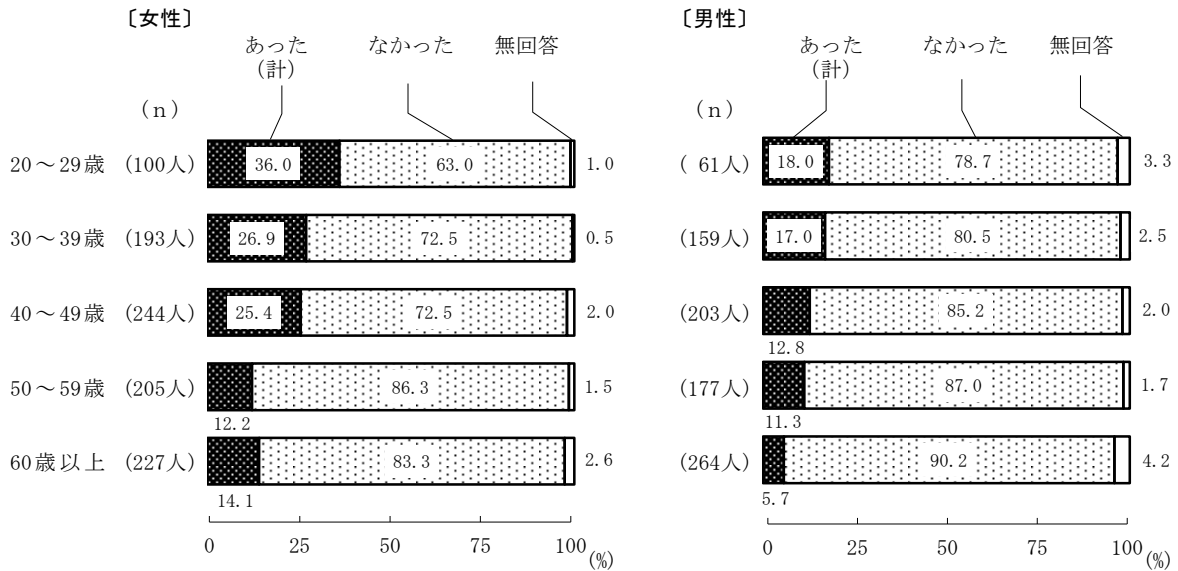
図3-1-2 交際相手からの被害経験の有無 —②同居期間中—



※「②同居期間中」は、暴力被害の有無に関わらず、交際相手と同居した経験がある人のうち、A“身体的暴行”、B“心理的攻撃”、C“経済的圧迫”、D“性的強要”のいずれかに回答をした人のみ集計しているため、無回答はない。

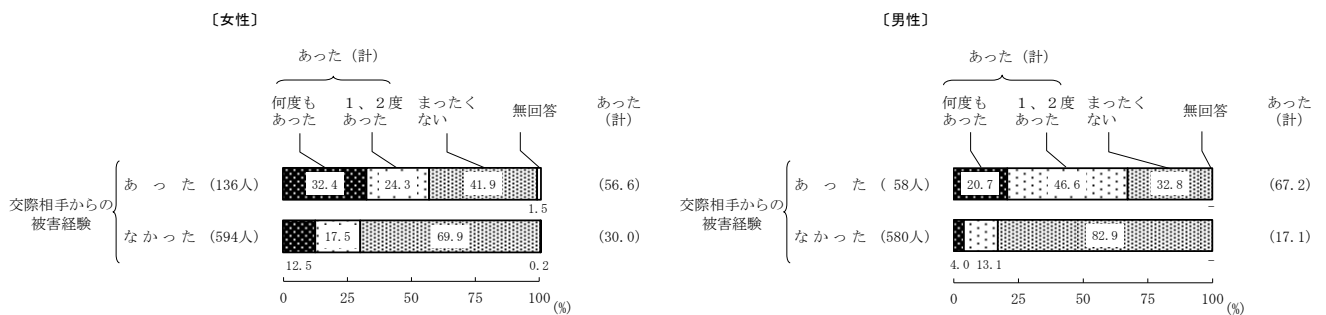
性・年齢階級別にみると、女性では20～29歳から40～49歳で25%以上、男性では20～29歳と30～39歳で17%以上と被害経験が多く、特に、女性の20～29歳では36.0%と高くなっている。(図3-1-3)

図3-1-3 交際相手からの被害経験の有無(性・年齢階級別)



交際相手からの被害経験の有無別に、配偶者からの被害経験の有無をみると、女性で交際相手からの被害経験がある人(136人)では、配偶者からの被害経験もある人が56.6%となっているのに対し、交際相手からの被害経験がない人(594人)では、配偶者からの被害経験がある人が30.0%となっている。また、男性で交際相手からの被害経験がある人(58人)では、配偶者からの被害経験もある人が67.2%となっているのに対し、交際相手からの被害経験がない人(580人)では、配偶者からの被害経験がある人が17.1%となっている。(図3-1-4)

図3-1-4 配偶者からの被害経験の有無(性・交際相手からの被害経験の有無別)



“身体的暴行”“心理的攻撃”“経済的圧迫”“性的強要”のそれぞれをみると、“身体的暴行”が「10歳代にあった」が2.6%、「20歳代にあった」が5.6%、「30歳代以上にあった」が1.3%となっている。

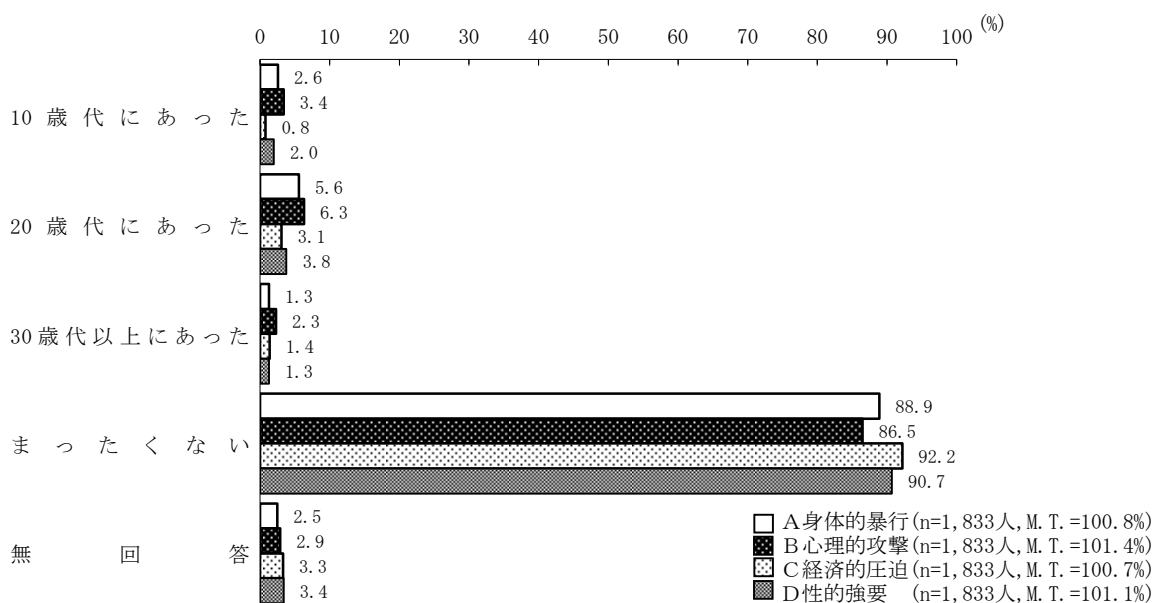
“心理的攻撃”は「10歳代にあった」が3.4%、「20歳代にあった」が6.3%、「30歳代以上にあった」が2.3%となっている。

“経済的圧迫”は「10歳代にあった」が0.8%、「20歳代にあった」が3.1%、「30歳代以上にあった」が1.4%となっている。

“性的強要”は「10歳代にあった」が2.0%、「20歳代にあった」が3.8%、「30歳代以上にあった」が1.3%となっている。

(図 3-1-5)

図 3-1-5 交際相手からの被害経験（複数回答）



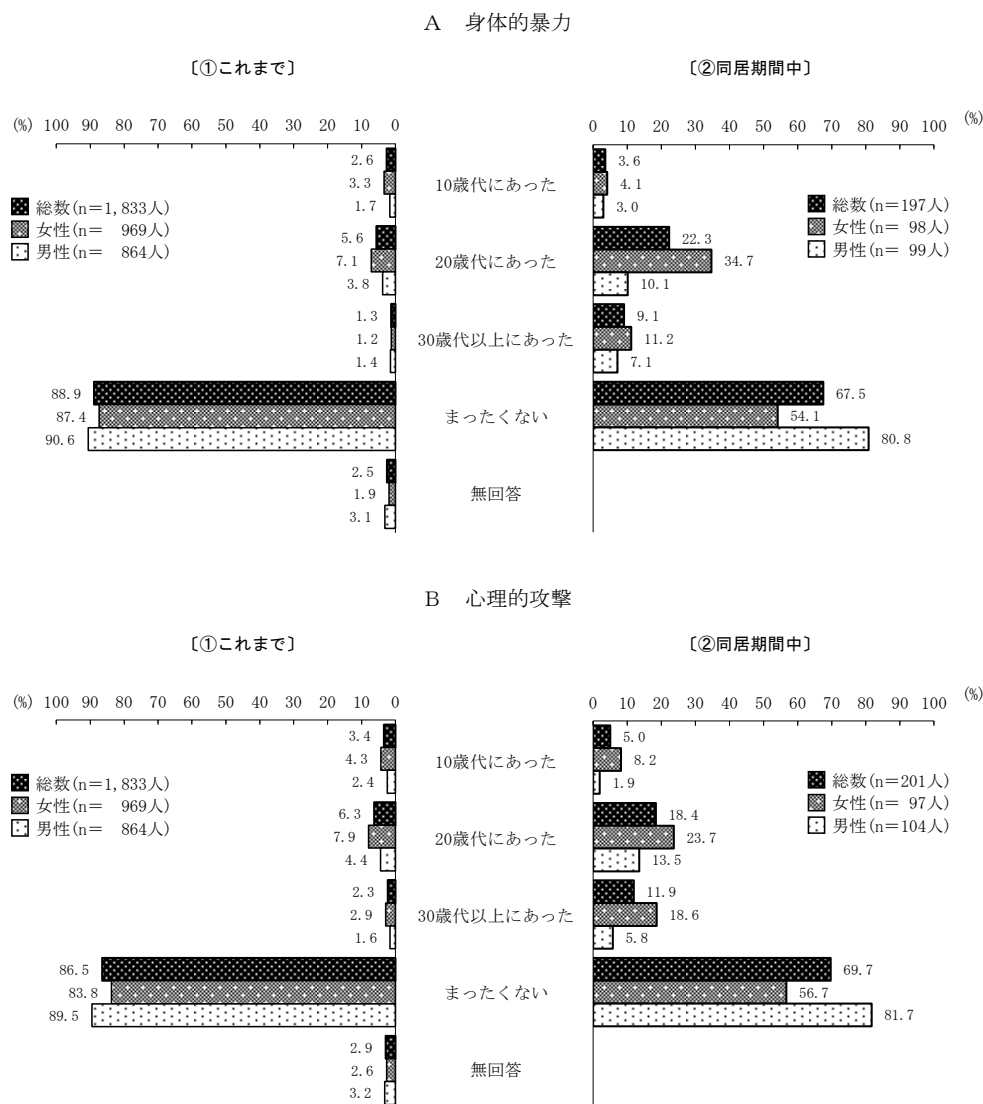
- A なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行
- B 人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫
- C 給料や貯金を勝手に使われる、デート代や生活費を無理やり払わされるなど
- D 嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど

交際相手からの被害経験を性別にみると、いずれの行為についても男性より女性の方が被害経験のある人がやや多くなっているが、それほど大きな差は見られない。

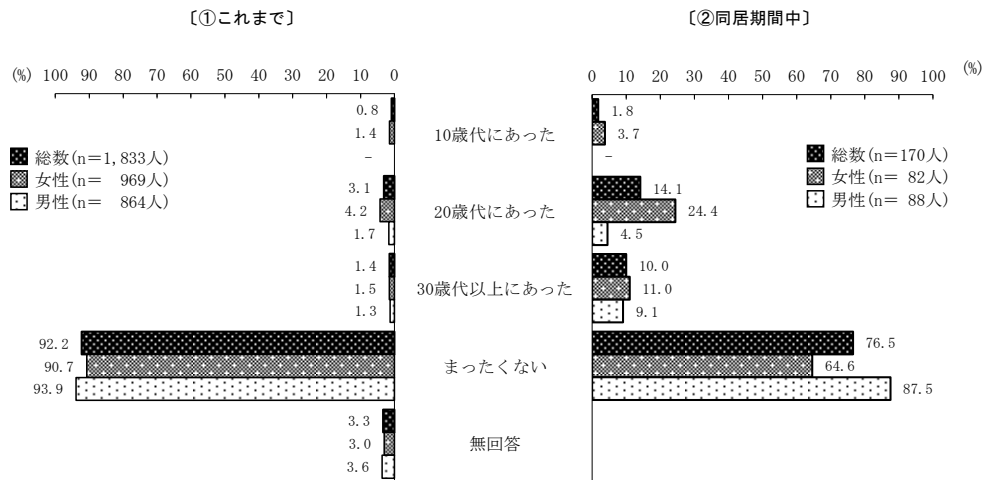
交際相手との同居期間中の被害経験をみると、“身体的暴行”は「10歳代にあった」が3.6%、「20歳代にあった」が22.3%、「30歳代以上にあった」が9.1%、「心理的攻撃」は「10歳代にあった」が5.0%、「20歳代にあった」が18.4%、「30歳代以上にあった」が11.9%、「経済的圧迫」は「10歳代にあった」が1.8%、「20歳代にあった」が14.1%、「30歳代以上にあった」が10.0%、「性的強要」は「10歳代にあった」が4.0%、「20歳代にあった」が13.2%、「30歳代以上にあった」が7.5%となっている。

性別にみると、いずれの行為も男性よりも女性が被害経験が多く、「10歳代」や「30歳代以上」よりも「20歳代」の方が被害経験が多い。(図3-1-6)

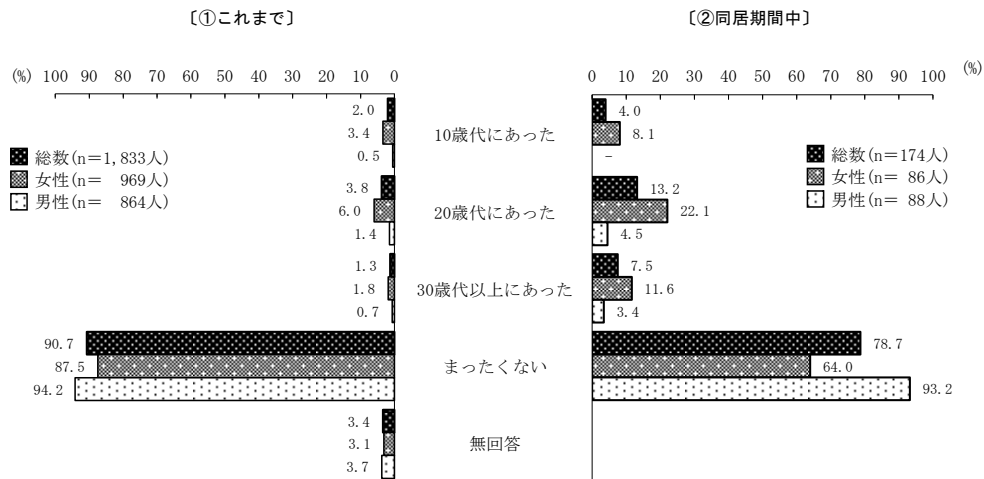
図3-1-6 交際相手からの被害経験（性別）（複数回答）



C 経済的圧迫



D 性的強要



※「②同居期間中」は、暴力被害の有無に関わらず、交際相手と同居した経験がある人のうち、A「身体的暴行」、B「心理的攻撃」、C「経済的圧迫」、D「性的強要」のいずれかに回答をした人のみ集計しているため、無回答はない。

また、交際相手から何らかの被害を受けたことのある人（306人）に、その交際相手の性別を聞いたところ、「異性」が97.7%、「同性」が0.7%となっている。（表 3-1-1）

問 16-1 また、交際相手の性別はどちらでしたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

表 3-1-1 交際相手からの性別（男女別）（複数回答）

(交際相手からこれまでに被害を受けたことがある人)		(%)		
	n	総数	女	男
		306	207	99
異性		97.7	98.1	97.0
同性		0.7	0.5	1.0
無回答		1.6	1.4	2.0

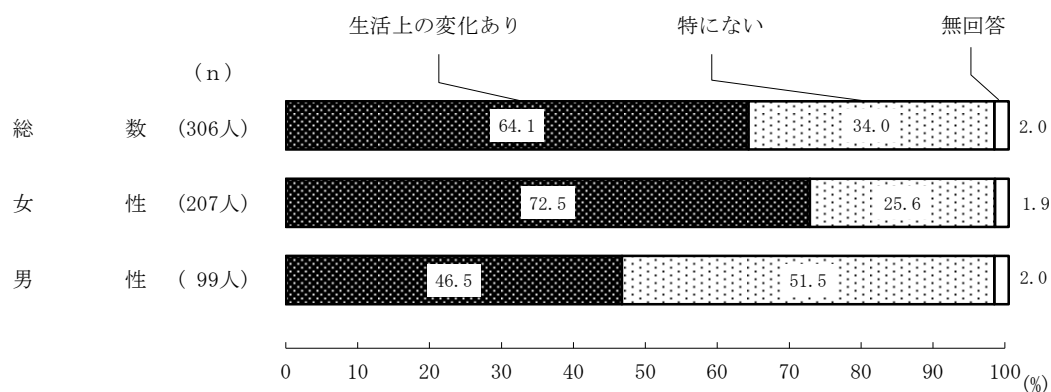
(2) 生活上の変化

交際相手から何らかの被害を受けたことのある人（306人）に、被害によって引き起こされた生活上の変化を聞き、何らかの変化があったと回答した人を『生活上の変化あり』としてまとめた。

『生活上の変化あり』は64.1%で、女性が72.5%、男性が46.5%となっている。（図3-2-1）

問17 あなたはこれまでに、交際相手から受けたそのような行為によって、生活が変わりましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

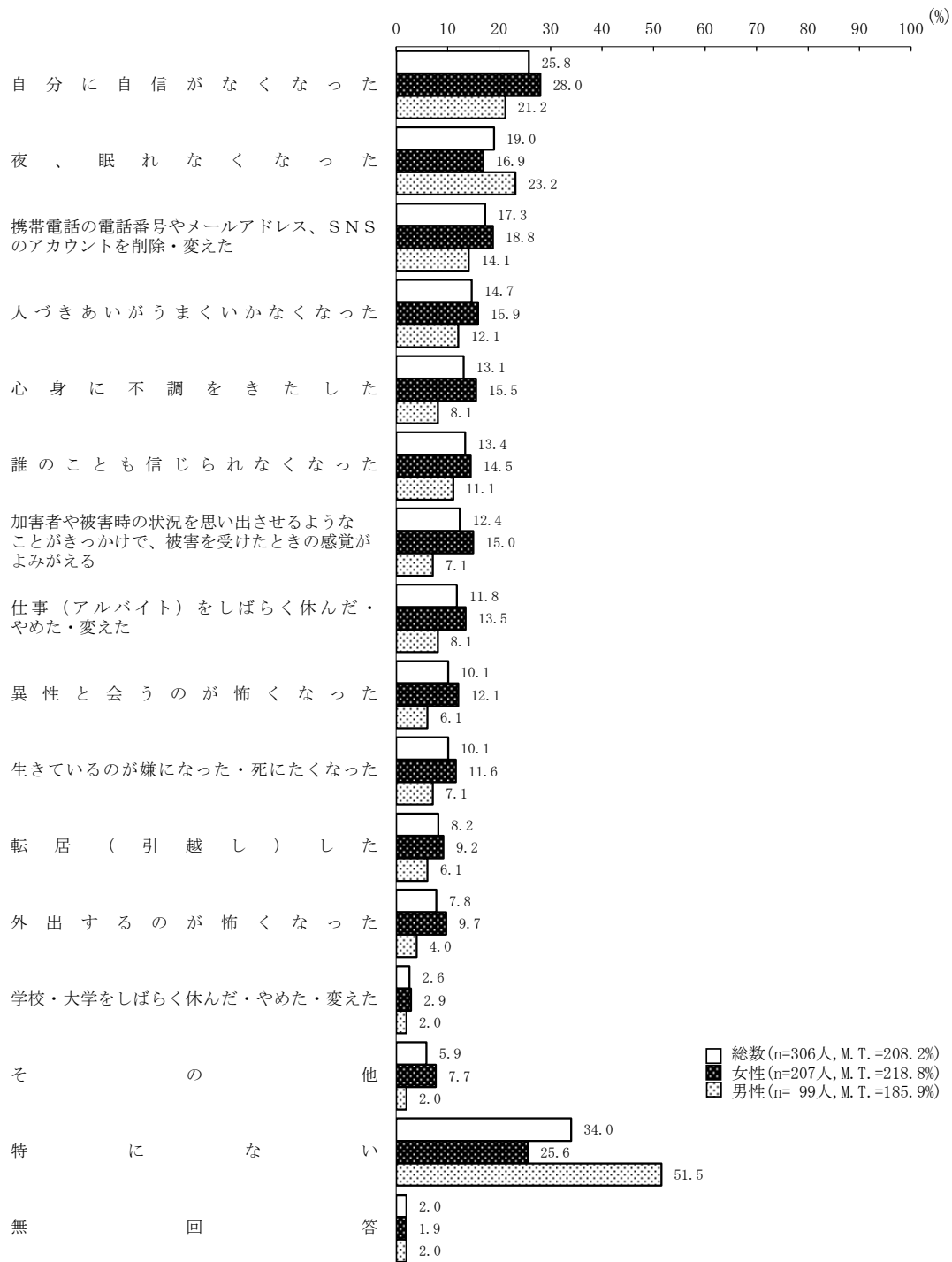
図3-2-1 交際相手からの被害による生活上の変化の有無



生活上の変化の内容をみると、「自分に自信がなくなった」(25.8%)が最も多く、次いで「夜、眠れなくなった」(19.0%)、「携帯電話の電話番号やメールアドレス、SNSのアカウントを削除・変えた」(17.3%)、「人づきあいがうまくいかなくなった」(14.7%)などとなっている。

性別にみると、女性は「自分に自信がなくなった」が28.0%と最も多く、男性は「夜、眠れなくなった」が23.2%と最も多くなっている。(図3-2-2)

図3-2-2 交際相手からの被害による生活上の変化(複数回答)



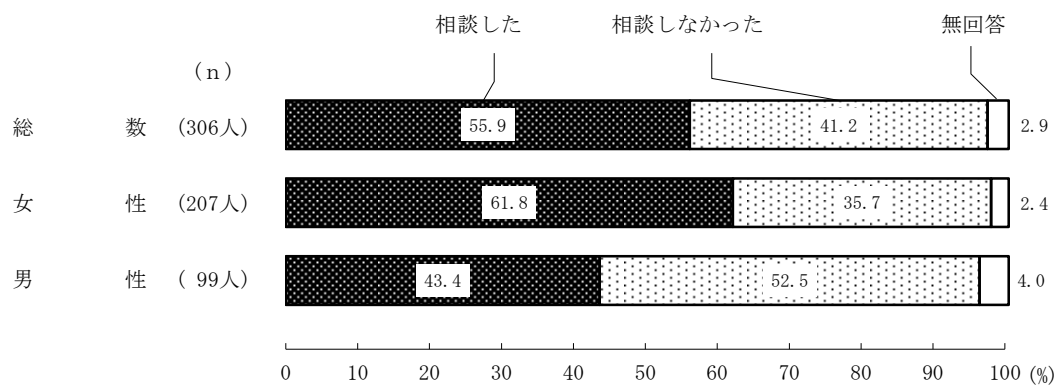
(3) 交際相手からの暴力の相談経験

交際相手から何らかの被害を受けたことがある人（306人）に、被害の状況について、だれに打ち明けたり、相談したりしたかを聞き、いずれかの相談先を回答した人の合計を『相談した』にまとめた。

『相談した』は55.9%であり、女性が61.8%、男性が43.4%となっている。（図3-3-1）

問18 あなたはこれまでに、交際相手から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

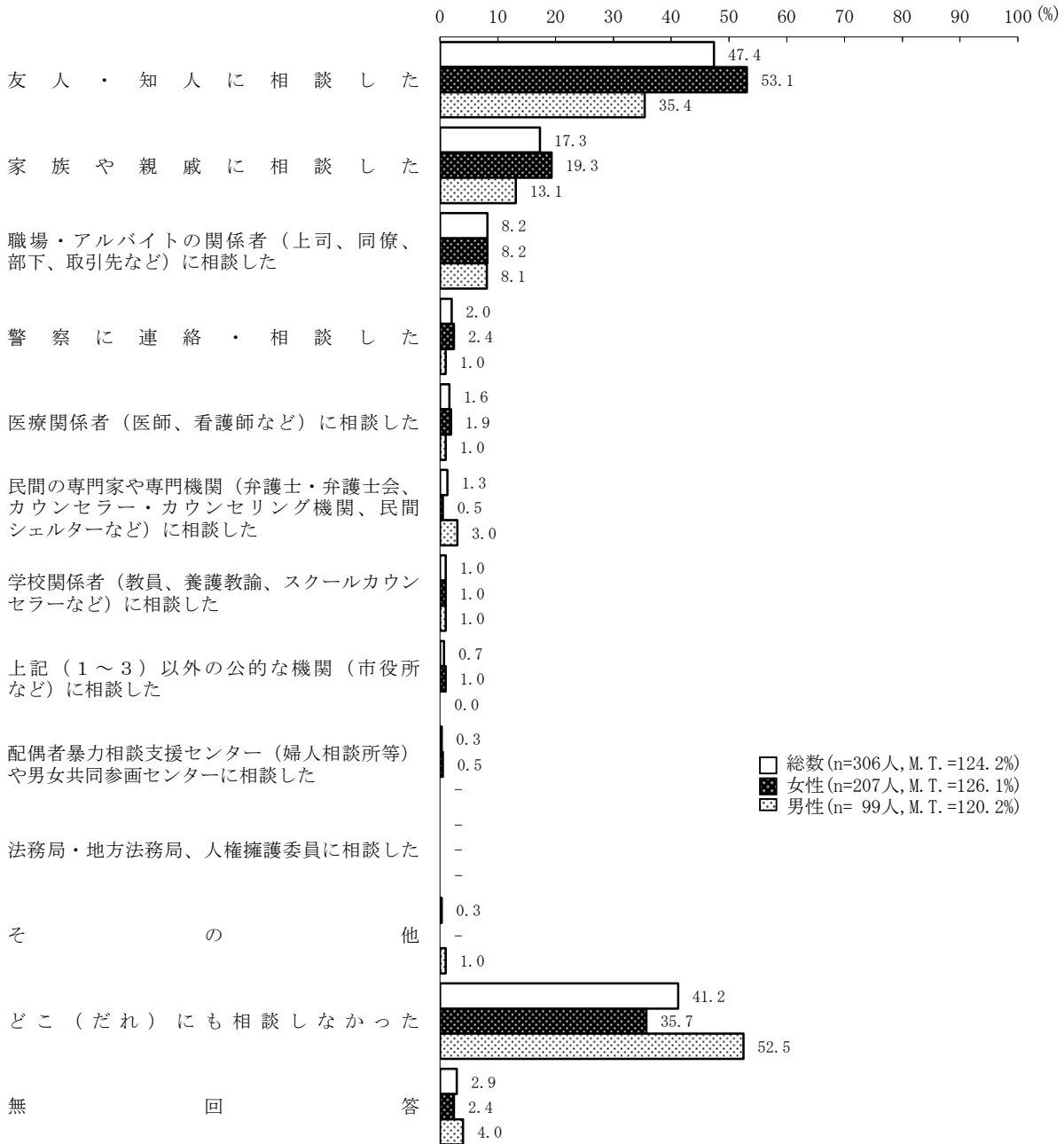
図3-3-1 交際相手からの暴力の相談の有無



相談先をみると、「友人・知人に相談した」が47.4%と最も多く、次いで「家族や親戚に相談した」(17.3%) などとなっている。

性別にみても、男女とも「友人・知人に相談した」(女性53.1%、男性35.4%) が最も多くなっている。(図3-3-2)

図3-3-2 交際相手からの暴力の相談先(複数回答)



* 「上記(1~3)以外の公的な機関」とは、下記以外の公的な機関を指す。

1. 配偶者暴力相談支援センター(婦人相談所等)や男女共同参画センター
2. 警察
3. 法務局・地方法務局、人権擁護委員

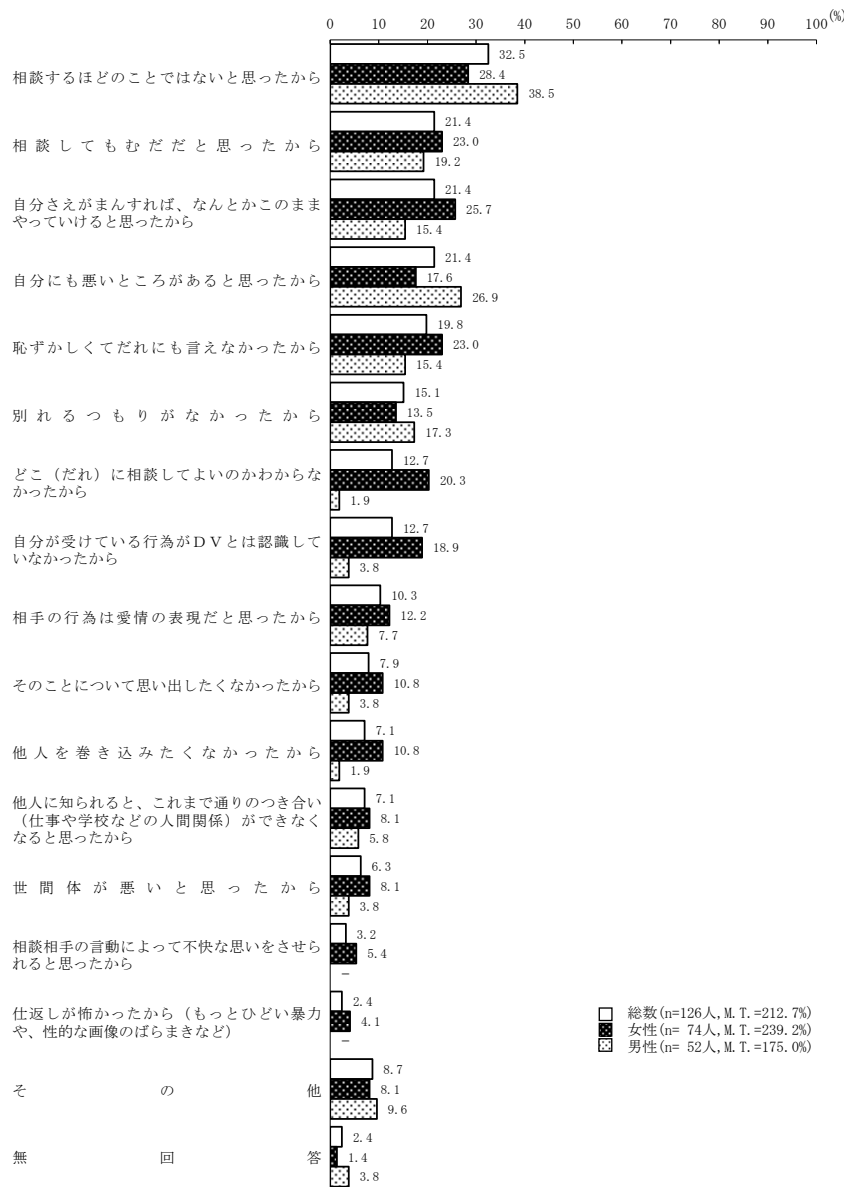
(4) 相談しなかった理由

交際相手から受けた被害について、「どこ（だれ）にも相談しなかった」という人（126人）に、相談しなかった理由を聞いたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が32.5%と最も多く、次いで「相談してもむだだと思ったから」、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」がともに21.4%などとなっている。

性別にみると、男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから」（女性28.4%、男性38.5%）が最も多く、次いで、女性は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（25.7%）、男性は「自分にも悪いところがあると思ったから」（26.9%）が多くなっている。（図3-4-1）

問19 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。
あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図3-4-1 相談しなかった理由（複数回答）



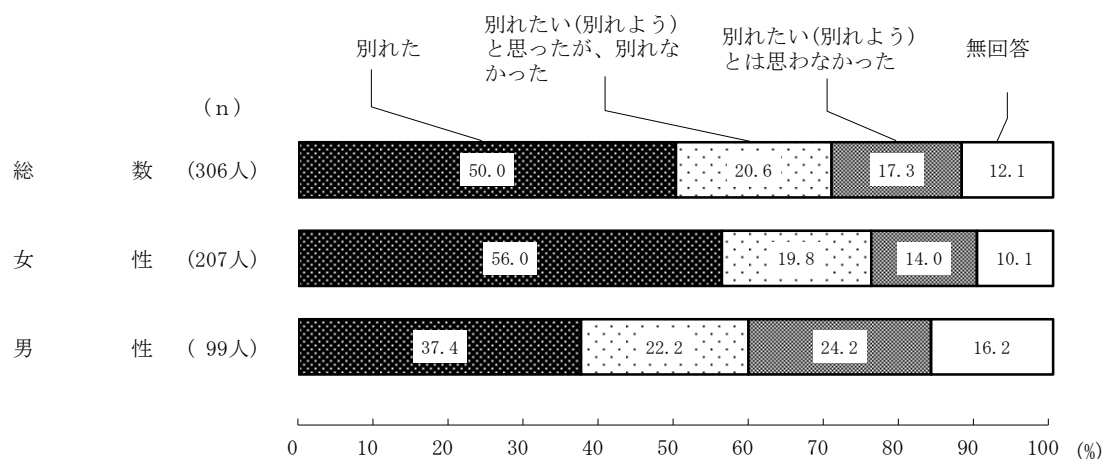
(5) 交際相手から被害を受けたときの行動

交際相手から何らかの被害を受けたことがある人（306人）に、その行為を受けたとき、相手との関係をどうしたのか聞いたところ、「相手と別れた」が50.0%で、「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」が20.6%、「別れたい（別れよう）とは思わなかった」が17.3%となっている。

性別にみると、女性は「別れた」が56.0%でほぼ半数を占め、「別れたい（別れよう）とは思わなかった」という人は14.0%となっている一方、男性は「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」が22.2%、「別れたい（別れよう）とは思わなかった」が24.2%で、結果的に『別れなかった』という人が半数近くを占めている。（図3-5-1）

問20 あなたは、交際相手からそのような行為を受けたとき、どうしましたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ）

図3-5-1 交際相手から被害を受けたときの行動

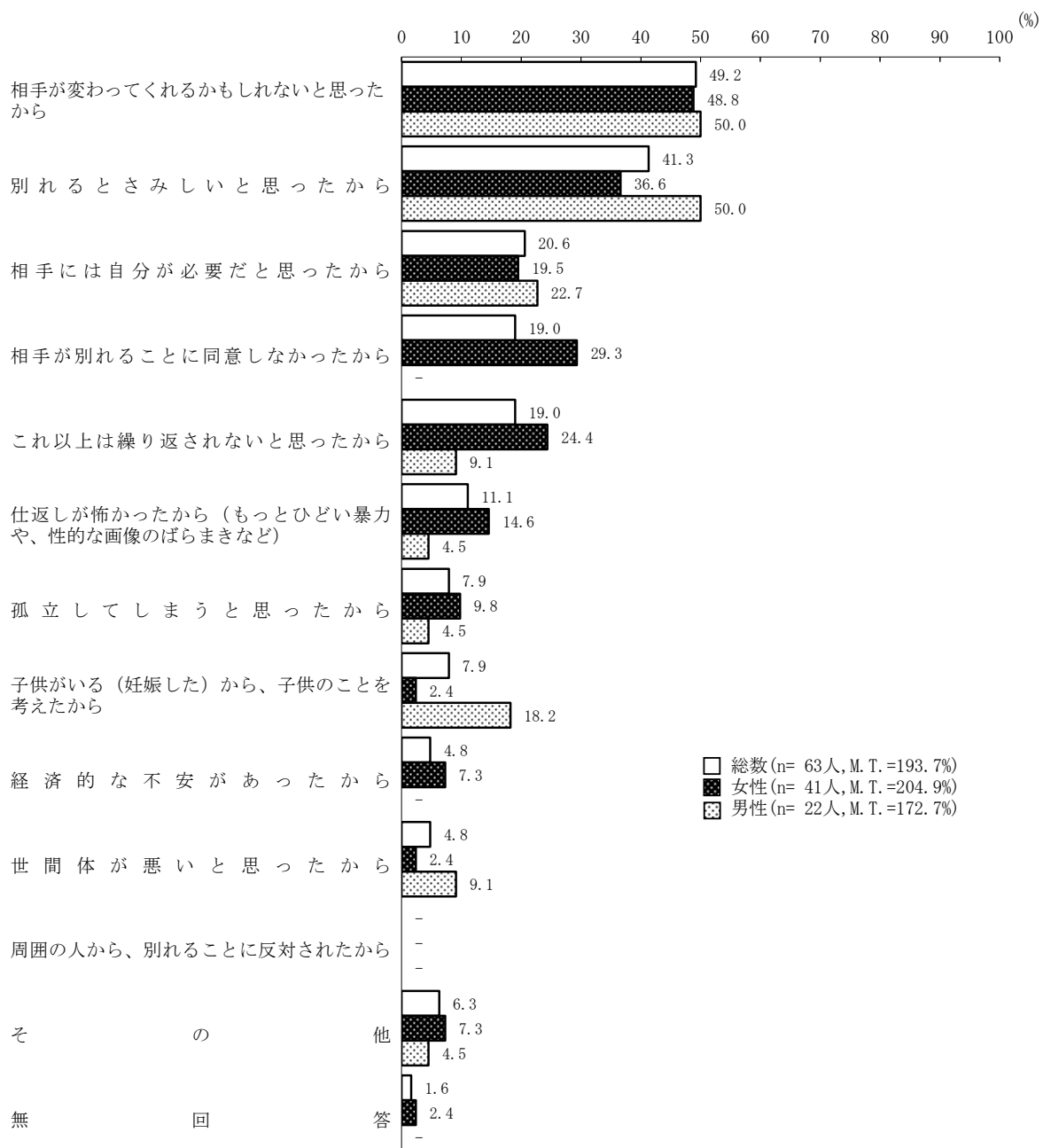


(6) 交際相手と別れなかった理由

交際相手から何らかの被害を受けたとき、相手と「別れたい（別れよう）」と思ったが、別れなかったという人（63人）に、別れなかった理由を聞いたところ、「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」が49.2%と最も多く、次いで「別れるときみしいと思ったから」が41.3%などとなっている。（図3-6-1）

問21 あなたが、交際相手と別れなかった理由は何ですか。
あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図3-6-1 交際相手と別れなかった理由（複数回答）

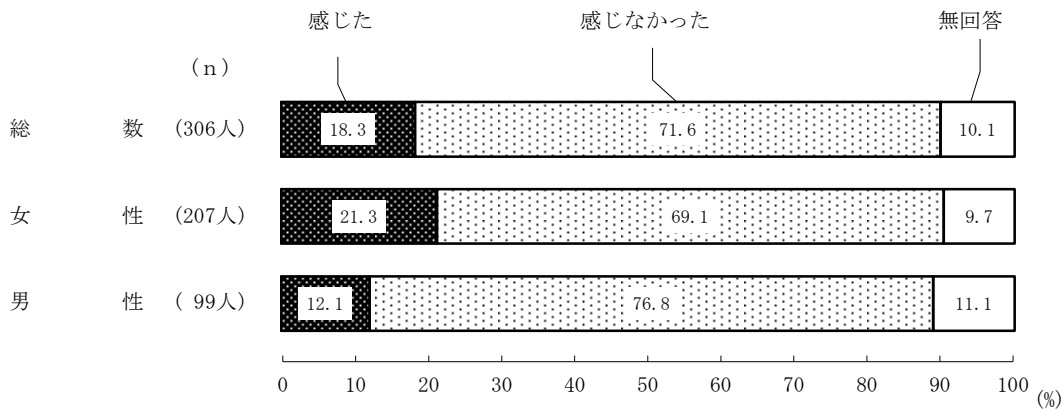


(7) 命の危険を感じた経験

交際相手から何らかの被害を受けたことのある人（306人）に、その行為によって、命の危険を感じたことがあるかを聞いたところ、命の危険を「感じた」は18.3%であり、女性が21.3%、男性が12.1%となっている。（図3-7-1）

問22 あなたはこれまでに、交際相手から受けたそのような行為によって、命の危険を感じたことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ）

図3-7-1 命の危険を感じた経験



交際相手からの被害を受けたことがない人も含めて、「交際相手がいた（いる）」という人（1,833人）でみると、命の危険を「感じた」という人は3.1%で、女性が4.5%、男性が1.4%となっている。

（図3-7-2）

図3-7-2 命の危険を感じた経験（全体ベース）

